

【講師の先生による指導講評】

〔大田区教育委員会指導課 STEAM 教育専門員 清水 一豊 先生〕

総合的な学習では、児童が単元の目標を考え、「導入・展開・まとめ」の共通した流れの中で学習を進めることを大切にしながら、単元導入や学習展開の工夫、交流の場の設定、機器の効果的な活用などを通して思考を深めていくことが求められる。その際、ウェビングマップやコンセプトマップを活用して情報を整理する段階を設けたり、色分けしながら思考を可視化したりすることで混乱を防ぎ、根拠のあるデータや具体的な数字、具体物を示すなどして、説得力のある学びへと高めていくことが「おおたの未来づくり」の素地づくりにつながる。

また、グルーピングを含めた人間関係づくりを大切に、話し合いながら活動できる環境を整えるとともに、発表では形式にとらわれるのではなく、聞く姿勢を重視し、一人ひとりが自信をもって自分の言葉で伝えられる場を保障することが重要である。調べて発表して終わるのではなく、自分の体験や経験から問いを見出し、本当かどうかを確かめながら具体的な成果として外へ発信するところまで取り組むことこそが、本来の総合的な学習の姿である。

【研究の様子】

○児童が「自分ごと」として課題を捉える姿が見られた

出前授業や他校のプレゼン動画視聴を導入に位置付けたことで、東京の課題（ごみ・水・食料・防災など）を抽象的な問題ではなく、「自分たちの生活とつながる問題」として捉える児童が増えた。

○協働的な探究を通して、思考の再構成が生まれた

個人→グループ→社会へという段階的な構造を意図的に設計したことで、

- ・ 他者の意見を取り入れて考えを修正する
 - ・ 自分のアイデアを根拠づけて説明しようとする
 - ・ 調査結果をもとに判断を組み立てる
- といった姿が見られた。

【研究授業の様子】

